

第10章 調査

1. 調査の方向性

(1) 調査研究の推進

史跡の本質的価値をより明確にし、適切な保存活用を図るため、八上城跡の全容及び実態解明に必要な調査研究を進める。

(2) 調査成果の公開

実施した調査成果については、市の広報誌やホームページ等で周知するとともに、説明会や見学会など、城郭遺構や新たな発見に触れることができる機会を設ける。

(3) 市内の歴史文化まちづくり資産の保存活用に関する調査

八上城跡に関する保存と活用のための取り組みや、丹波篠山市が有する多様な歴史文化まちづくり資産に関する保存と活用の取り組みについて、市民や観光客等からの評価を把握し、八上城跡の保存と活用のあり方に活かす。

2. 調査の方法

(1) 調査研究の推進

①指定地内の調査

- ・今後の保存活用を目的とした整備にむけて、調査目的・調査内容・調査スケジュール・調査体制等を明確にした調査研究計画を作成する。
- ・遺構の全体像を把握するために、兵庫県が公開する遺跡立体図等を参考に、遺存している可能性のある遺構の分布調査を行う。
- ・石垣をはじめとする遺構を適切に保存したうえで活用や整備を行っていくために、測量調査や必要に応じて発掘調査を実施し、遺構の価値や残存状況等の情報を収集する。
- ・発掘調査は史跡の現状変更に当たるため、調査による遺構等への影響に配慮したうえで、最小限の範囲での発掘調査の実施となるよう十分に検討する。また、遺構への影響を最小限にするため、地中レーダー等による非破壊の調査方法の実施も検討する。
- ・丹波篠山の森づくりと調和した山城としての適切な目標林を設定するため、植生調査や生態系の調査を行う。

②指定地周辺の調査

- ・指定地周辺では、遺構が存在すると推定される範囲については、遺構分布調査を進め、さらに発掘調査等の成果に基づいて、適切な保存措置を講じるとともに、新たな知見の蓄積を図る。
- ・調査により、本史跡の本質的価値に関連する遺構等が確認された場合は、史跡の追加指定等の保護措置について、土地所有者や関係機関等との協議を図る。

③調査研究の継続

- ・新たな発掘調査を行うだけでなく、これまでの調査を踏まえて地域の関連する山城との城郭構造等の比較検討等を継続して行う。
- ・八上城跡と城下町や山陰道との関連性を明らかにするため、古絵図や文献史料等の多角的な調査研究を行う。
- ・八上城跡の価値等をより深く解明するため、大学等の研究機関、研究者、周辺自治体等との連携による継続した調査研究を行う。

(2) 調査成果の公開

- ・史跡の適切な保存と管理には、地元住民の理解と協力が不可欠である。調査研究を継続して行い、その成果を発信することで史跡の保護に対して理解を得られるように努める。
- ・調査成果の公開は、市広報誌への掲載、ホームページの更新、現地説明会や発掘調査報告会の実施、発掘調査報告書の刊行などで随時行う。

(3) 市内の歴史文化まちづくり資産の保存活用に関する調査

- ・八上城跡や歴史文化まちづくり資産に関する取り組みについて、市民や観光客を対象としたアンケート調査等を実施し、それらに対する評価の把握に努め、多様な視点から、丹波篠山市のまちづくりにおける史跡八上城跡の保存と活用のための整備のあり方に活かす。